

19/11/28 名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会終了後
河村たかし名古屋市長と千田嘉博氏の共同ぶら下がり会見

記者：毎日新聞の野村と申します。今日は個人でいらっしゃったと申しました

千田：個人で来ました。

記者：さっきお話は伺いましたけれど、市民の方のご意見もありましたが、その件でコメントは

千田：私はそれについては何かコメントする立場ではありませんので、それはコメントありません。

記者：石垣部会のかたときちんと一緒にやっていくとお話ありましたけれども、一致団結しているというお考えですか

千田：そうですね。いろいろまあ、相違がなかったわけではありませんけれども、現在ではですね、やはり石垣をしっかり調査をしてそれを保全をしっかりしながらですね、整備を考えていこうというところは完全に一致しておりますので、石垣部会もですね。それはもう前向きにですね、しっかり議論に加わって、いいですね、調査をしていただいて。必要な保全の措置をですね、とっていけるようにしていきたいというところを考えているところです。

それから、今日もあの全体の説明会の中でも、お話があったことですが、文化庁の側からですね、天守台の復元まで一体のですね整備計画を出すようにというそういった指導があったということで、従来石垣部会はですね、天守の復元については、文化庁が判断を示しておりませんでしたので、それについて調査をするしないっていうことをですね。部会としてはこれ議論ができないというのがこれまでの立場でありましたが、今回ですね、文化庁の方から天守のですね、復元のところまで一体の整備計画をとということがまあ求められましたので、これからですね、天守台の特に穴蔵階だとかですね、石垣の調査その他についてですね、石垣部会の中でもそれを議論していくというこちになりました。その点も大きく変わったわけです。

記者：朝日新聞です。一緒に並ばれているというのはすごい進展だと思うのですが、変わった理由というかですね、手を携えられるようになった理由というのはどういうことですか。

千田：はい、あの一、これまでもですね、対立してきたわけではなくてですね、名古屋城というのは国の特別史跡でありますから、史跡をですね整備していくっていうことでは、文化庁が認めるいろんな学術的な手順であったり、調査と、そしていくら良い整備をするっていうことであっても、残されている文化財ですね。名古屋城の本質的な価値が壊れてしまうっていうのは、これはまずいということで、そういった例えば残ってる石垣であったり、あるいは櫓であったりですね、そういったものをしっかり保全しながら整備をしていくという。

これはまあ名古屋城に限らずですね、認められていることでありまして、従来ですね。そこのどういうふうに整備していくかというところの工程の中で、石垣部会が求めていたですね調査であったり評価っていうのが十分できていないのではないかとということを上げてきたというところで名古屋市とのですね意見の一致がないところがあったということなんですが、先ほどお話ししましたように、文化庁からもですね。

そういう形でしっかり調査をして、その成果に基づいた議論を詰めるようにというですね、そういう指導がありまして、名古屋市としてもその方針で改めて進めるということを市長決断されましたので、石垣部会はですねそういうことを求めていたわけですから、名古屋市がそういう形で市長の決断になったということであれば、何のもう問題もありませんので、そういった形で一緒にですね、名古屋城の良い調査をして、それに基づく評価をやって、もし保全措置ですねということが必要などころがあるということであれば、それについてまた市に対してですね、こういう助言をさせていただくと、いう形で、建設的に一緒になってですね、整備の議論を進めていきたいというふうにまあ考えているということなんです。

記者：すいません。ちょっと途中からでもし重複したら恐縮なんですけれども、冒頭で今日は個人として来られたとおっしゃられましたけれども、途中のお話で、せんだっての市との打ち合わせについては、方向性で完全な一致を見たというふうに。これは部会として完全な一致をみたということでしょうか

千田：そうですねそれははいそういうことであります。

記者：でいろんなご説明の中で、熊本の例を引き合いに出されましては、必ずしもその、長い長い時間がかかるわけではない方法もあるという話もありましたが、これは先生個人の考え方ですか

千田：これは個人ですね。

あの、結局ですね、熊本城ではですね全体として 500 ヶ所以上の石垣が地震で被害を受けているわけなんですけれども、それをですね全部まあ一旦解体してですね、積み直すというこ

とではなくてですね、それぞれの状況に応じて適切な修理を行っていくとすると。これは解体してしまえばですね、いくら学術的な厳密な手順を踏んだとしても、やはりこれは 21 世紀に積み直した石垣ということになって、まあ本物ではないということになりますので、熊本城でも可能な限りですね、本物を残していくと。しかし一方では崩れてしまうような石垣をそのままにしておくわけにはいきませんから。安全対策ですね安全性を保った石垣をどうしたら解体せずにですね、直していくことができるかっていうのは非常に大きな課題になっておりまして、それについては伝統的な工法というのがまずは一番ですけどもそれ以外に様々な新しいですね方法っていうのも今熊本城で実現しておりますので、そういった最先端のですね、石垣修理のいろんな知識や技術をですね、これは竹中工務店さんもお詳しいと思いますが、そういったものを名古屋城においてもですね、使っていくって、文化財としての価値をしっかりと担保しながら、適切にですね皆さんに安心して見ていただける石垣もしていくってですね、そういうことが実現できるのではないかというふうに個人としては考えております。

記者：ありがとうございます。

記者：石垣については、文化庁から色々出ていますが進みつつあるという印象なのですが、今日も市議会の方で出ているのですが、天守のはね出し工法についてですね、石垣部会と相違があると市も説明されたのですが、その辺のことについてどう考えられていますか？

千田：はい、これについてはですね、今結論を出せません。石垣については今、基礎的なですね、調査であります石垣カルテなど、今年度末できればまとめていただけたらありがたいというふうに思っておりますが、そういうものに基づいて、しっかりとしたですね、学術的な議論をしていくという中で、今、私達が見ることができる、名古屋城の大天守台の石垣あるいは小天守台の石垣ですね。そういったものがどういう学術的な価値を持っているかという評価をしていくということになります。

あるいは、どれぐらいいたんであるかということについてですね、議論をしてある評価を下すということになります。

そういったものが結果次第ですね。

例えば、解体修理のような、例えば内側のですね。

穴蔵階といつているところの解体修理っていうのが必要なことになるのか、あるいはそうではないのかですね。

そのあたりのところがはっきりしてくると、逆に言うと何を文化財として国の特別史跡の石垣として守らなければいけないのかっていうことが〇〇しますので。

特別史跡や史跡の整備の基本原則でそういう価値のあるその本質的価値を持つてるものを壊して何か作るっていうことは原則として認められないんですね。これはもう名古屋城に

限らず、あらゆる史跡でそうでありますから。

そこではね出し工法というような工法がなりたつのか、あるいはこれは難しいということになってくるのかですね。

そういったことも明らかになってくるということだと思います。

市：千田先生、そろそろお時間ですがよろしいですか。

河村：まあ、なかようやってちょうということで、なかようやろまい、ということで、ちよっとわしも写真撮っというてちょうよ

記者：はい、チーズ

こちらをお願いします

河村：せっかくなので

ありがとうございます。

千田：ありがとうございます。